



長岡信明 NOBUAKI NAGAOKA

1952年生まれ。ギターの録音物を通して、ギターの発展を研究することを目標に、世界中のギター録音の収集および体系的データベース作りを目指す。



Cartografia del Mar ゴンサレス

Cartografia del Mar
Pedro Moteo Gonzalez (G), Andre Cebrían (F)
Eudora EUD-SACD-2307
スペイン盤

●スペインのギタリスト、ゴンサレスとフルーティスト、セブリアンのデュオによる現代のフルートとギターのオリジナル作品集。「海図の作成」という不思議なタイトルのアルバムであるが、未知の領域へ向かっての道筋を探ることを指しているのであろう。ジャケットも自由解釈ではなくちょっと変わった工夫が凝らされている。ピアソラからピーサーまでは定番のラインナップであろうか。リズム感の明快な〈タンゴの歴史〉や現代の古典ともいべきC=テデスコ、独特の音の間が感じられる武満 徹、どこかウェスタン風も感じさせるピーサーと、二人は巧みにその作品の個性を表現した演奏を行なっている。ブローウェルの作品はキューバの詩人ビティエールの思い出に作曲された。全編どこか東洋風を思わせる静かな音楽ではあるが、中間部の無窮的な音列が良いアクセントになっている。ガスルの小品はフラメンコのリズムは背景にあるものの2楽器の掛け合いが面白い軽快な作品である。

[タンゴの歴史 (ピアソラ)、ソナチネ Op.205 (C=テデスコ)、海へ (武満 徹)、山の歌 (ピーサー)、シンティオ・ビティエールのためのエレジー (ブローウェル)、ブルーミントンの魚-ブレリア (ガスル)]



Meaningful Pop ベター・コール・デュオ

Meaningful Pop
Better Cell Duo (熊千鶴子, Stefano Palamidessi)
IGM
Da Vinci Classics C00944
日本/イタリア盤

●本誌 No.726 でワルツ集のアルバムを紹介した畑がギターの節であるパラミデッシと組んで現代のデュオ・オリジナル作品を録音した。このチームはほぼ同じプログラムで4月に来日公演も行なっている。藤井真吾とガンジの作品を収録しているところに興味を感じるとともに、作風の違いも認識できて面白い。藤井の組曲はモダンで技巧的な序奏以降は耳慣れた日本の旋律の表現が主であり、一方ガンジの方はイタリアのモチーフを使っているもリズム感が聴きどころであろう。ただ二人の解釈の統一がこれらの曲の面白さを際立たせている。プティの作品はプレスティ・ラゴヤのために作曲されたがトゥッカータの形式に当時の多様な音楽要素が含まれており、聴き易さと斬新性で時代を先取りした面白さが感じられる。デュオの表現が音楽にマッチしていることも一つの要因であろう。最後のデュートの組曲は演奏している二人の友情も含めての意味であろうか、息の合った演奏になっている。

[コム・デ・グラン (ディアンズ)、トゥッカータ (プティ)、ラブソディー・ジャパン (藤井真吾)、イタリア組曲 (ガンジ)、6つの友情 (デュート)]



Ladies of The Six Strings バイゲラ

Ladies of The Six Strings
Emma Balguera (G)
Da Vinci Classics C09681
日本/イタリア盤

●現代の個性的な女性作曲家によるギター作品を集めたアルバム。イタリアの女流ギタリスト、バイゲラが演奏している。バイゲラはブレシアで学んだ後ミラノでエドロフスキーに学んでいる。バイゲラは音楽院在学中から女性作曲家の研究に興味を持ちそれらの成果もこのアルバムに反映されているようだ。オランダのクルイスブリックは演奏のほかに400曲以上の作曲や出版を精力的に行なっているが、この曲はセゴビア生誕100年に委嘱されて作曲しマルティニクのコンクールで第1位を得た。セゴビアの思い出を4つの楽章により一種の心象をギターで表現した作品。ペイロはスイスの作曲家、セゴビアがジュネーブに暮らしていた時に演奏に感銘を受けてこれらの作品を作曲したが、結局は演奏されずにアーカイブに残っていたものである。カンポドニコの作品はロシア民謡の「賢いワシリーサ」を5つの場面(奏者が場面を読む)と間奏曲の6楽章の一種の音楽物語としたもの。

[アンドレス・セゴビアを讀んで (クルイスブリック)、主題と変奏曲、前奏曲第1〜4番、小組曲 Op.31 (ペイロ)、ショート・ソナタ (ロー)、ワシリーサの伝説 (カンポドニコ)]



Fantaisie Romantique エイカーズ

Fantaisie Romantique
James Akers (G)
Reacorus Classics RES10334
イギリス盤

●2022年の12月号で珍しいクリンゲルのアルバムを紹介したエイカーがさらに珍しい古典期の東ヨーロッパのギター作品アルバムを録音した(すべて初録音である)。東欧と言えればロシアンギターの影響も考えられるが、これらの作品はすべて通常の調弦である。なお、エイカーは6弦、8弦(これのみモダンコピー)、9弦の古典ギターを用いてオリジナルの音を追及している。ドゥベツ(オーストリアのギタリスト)の作品はハンガリーの主題を用いた他の作品でも耳にする旋律に溢れており、当時のオーストリアでの音楽の好みが良くわかる。ボルバイエノの作品の「ザボリージャ」は最近ニュースでもよく聞くウクライナ南部の都市名であるが、作曲された当時にこの地にいたコサックの民謡からとられている。ペトレッティのお気に入りの旋律はグリロフのロマンスから採られた。メルツの作品は未出版のオリジナルをマカロフが10弦ギター用に編曲したもの、作品番号はマカロフのものである。

[ザボリージャの主題による幻想曲 (ボルバイエノ)、ウクライナの道、ロマンチックな幻想曲 (ドゥベツ)、ハンガリーの主題による幻想曲 (ドゥベツ)、北方の花 Op.31 (マカロフ)、パシコフのお気に入りのロマンスによる幻想曲 Op.31 (ペトレッティ)、幻想曲 Op.9 (メルツ-マカロフ)、オーベールの歌劇「ガルベの王の婚約者」の主題による大幻想曲 Op.25 (バヴリシェフ)]